

梶浦 一郎

(ボバース記念病院)

平成3年1月21日、ロンドンのボバースセンターの Bryce 所長から1通のファックスが送られてきました。「先週末に Bobath 夫妻が亡くなりました。彼らは仕事も生活も一緒でした、云々」という簡単な内容でしたが、非常な驚きと悲しみが胸中をよぎると同時に、何か Bobath 夫妻のすべてを物語るような気さえしました。その2日後にフロリダから送られてきた Jay Schleickorn の報告で事情が明らかになりました。Karel Bobath は数週間前に転倒し、ベッド上生活になりましたが、入院を好まず、家で Berta Bobath の介護を受けていました。しかし、Berta も年齢が83歳で、かねてから多発性の関節炎で痛みが激しく、精神的にも打撃を受けたようです。報告の原文には下記のようにありました。

The fact that they seemed to agree on taking their life further demonstrates the overwhelming love they had for each other.

1991年4月23日、St. George's Day の日に金婚式をするつもりだと人に語っていたお2人が、その日を迎えることなくあの世に旅立たれたのは、事情はどうあれ、悲しみに耐えられません。しかし、お2人はいつも一緒に仕事をしておられましたので、一緒に亡くなられるのが最もふさわしかったのかも知れません。どちらか1人が残っても、夫妻にとっては意味のないことだったのでしょう。

Bobath 夫妻の生涯は別表のごとく波瀾に満ちたものでした。ユダヤ人としてナチに追われ、英国に渡り、そこで独自の活動が始まりました。Karel は講義の中で、「Berta が自分の行った治療結果の臨床像を私に示し、それを神経学的に説明してくれと頼んできたが、自分が学んだ医学の常識では説明できず、困ったものでした」と話していましたが、その言葉は夫妻の仕事振りをよく表していると思います。運動制御、脳の可塑性という全く未知だった分野を、50年も前に、純臨床的経験とそれまでに確立

されていた神経生理学の文献だけを頼りに、たった2人で切り拓いていった考え方はあまりにも独創的であったために、多くの人々に感動を与える一方、受講生の中にも誤解者が生じ、その理論が誤って伝えられたこともあって、反対者も出たようです。夫妻の考え方の根本は、中枢神経障害者の場合は一人ひとりが違った問題を抱えており、それに合ったプログラムを作成すべきであるというものでした。そのために夫妻の方法論は非科学的であるとの批判も受けたり、また夫妻の意に反し、簡略化し、マニュアル化している国もあります。しかし、あくまで臨床的事実を重視し、それに忠実であった夫妻の考え方の正当性は、生理学の発達につれて徐々に明らかになってきています。亡命者という立場で、しかも中枢神経障害という医学における最大の難問に対する2人だけの壮絶なチャレンジだったといえます。

有名な RIP から始まった方法は、変遷し、発達して、Key points of control を使ったダイナミックな、そして一人ひとりの患者に合ったプログラムをつくるという極めて柔軟な考え方へと進み、今日では Bobath という固有名詞ではなく、NDT (neurodevelopmental treatment) という一般名で呼ばれるようになっていきます。

1965年頃から我が国との接触がありましたが、故小池文英先生の依頼で来日をお願いに、私が夫妻の住居を訪ねたのは1972年の秋でした。質素な、しかし清潔に整頓された小さなフラットの一室で私を温かく迎えてくださり、来日を快く承諾していただいたのがついこの間のように思われます。それ以来、多くの日本人が英国で、あるいは日本で夫妻に接しましたが、本当に謙虚な、真面目な、そして温かい人柄に、誰もが感銘を受けたものでした。

今は共に天国に召されたお2人は、激しい苦難の戦いの果て、さぞ安らかに彼の地で眠っておられることでしょう。夫妻の残した大きな足跡は後の世まで語り継がれていくものと信じます。



1990年6月 ロンドンの自宅にて

Bobath 夫妻の生涯

Karel Bobath	Berta Bobath	Karel Bobath	Berta Bobath
1905年3月14日 ベルリンにて出生 1932～1933年：ベルリン大学 1933～1936年：プラハ大学	1907年12月5日 ベルリンにて出生 1926～1933年：ベルリンにて PT として勤務 1938年：英国へ亡命	1976年：オランダ PT 協会、オーストラリア小児科医協会から特別名誉会員の称号、ドイツ政府から第1級友好勲章が贈られる。	1976年：ドイツ政府から障害児治療の進歩に多大の功績があったとして、第1級友好勲章が贈られる。
1941年4月23日 Karel と	Berta 結婚	1979年：聖母整肢園主催「医師のための脳性まひ児早期発見、早期治療セミナー」のため来日	
1960～1970年：ロンドンのリハビリテーション病院のCP 部門責任者、Berta とともに講習会を開始 1972年：愛知県心身障害者コロニー開設記念に特別講演（初来日）	1951年：ロンドン西部脳性麻痺センター設立し、講習会開始	1982年：ボバース記念病院の名誉院長 1991年1月19日 85歳にて永眠	1981年：米国、ボストン大学より博士号贈呈 1982年：ボバース記念病院の技術顧問 1991年1月19日 83歳にて永眠
1973年：日本肢体不自由児協会主催「脳性麻痺療育者に関するボバース講習会」に来日。我が国で初めてボバースセラピスト50名受講			



脳性マヒ療育に関するボバース法実習会
昭和48年9月10日～9月21日：オリンピック記念青少年総合センターにて